

平成 26 (2014) 年度 事業計画書

みずしまの過去をいかし
ずっと環境のよい
しあわせな
まちづくりをめざして

今年度は組織設立から 14 年目、公益財団法人移行後は 4 年度目となる。昨年は、「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」に行政・大学などに加えて企業の参加が得られ、地域との連携に一つの成果を上げることができた。今年度は、その成果を活かして、水島地域を学びのできる地域として定着する活動を進めていきたい。

また、平成 25 年度は、請負事業の継続や新規の委託事業の獲得、賛助会員の拡大などにより、一部財政面での改善が見られたが、依然として経営的には苦しい状況が続いており、これまでのノウハウやつながりを活かした事業の獲得や、寄付・賛助会員の拡大により、財政の健全化も目指す。

設立趣意書にあるように、子や孫によりよい生活環境を手渡したいとする公害患者らの願いに応えるために、また新しい環境文化を創生しまちの活性化に貢献するために、そして二度と公害をおこさないために、住民を主体に行政・企業など、水島地域の様々な関係者と専門家が協働する拠点としてさらに前進すべく、平成 26 年度の事業計画を作成する。

1.重点項目

1) 水島の未来ビジョン 実現へのキックオフ

平成 25 年度に取り組んだ「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業（環境省）」では、企業・行政・地元団体・大学などが連携した協議会の立ち上げ、協議会での議論やパネルディスカッションを通じて、「水島地域の未来ビジョン」やそれに向けた具体的目標が策定できた。

2 年目となる今年度は、協議会を継続するとともに、水島での環境学習プログラムの情報集約を進め、情報発信のためのホームページの整備を行う。また、学びのメニューを精査することで、研修プログラムの強化をはかり、「水島版 ESD プログラム」として取りまとめる。その他、「経済と人々の暮らしの共生を考える（仮）」定期講座を倉敷市環境学習センターで開催することで、水島コンビナート企業も含めた地域との連携した取り組みとして発展させる。

2) 瀬戸内海国立公園 80 周年記念 調査研究・イベントの実施

平成 26 年は、瀬戸内海が我が国で最初に国立公園に指定されて 80 周年を迎えるため、これに関連した、調査研究やイベントを実施する。内容としては、従来研究成果を活かし、発展させる形での調査研究や、海底ごみの問題や海の生物多様性について体験を通じて学べるイベントを実施する。

また、従来行ってきた海底ごみ調査で得られた知見や、経験を活かした調査研究事業を行政に企画提案し、海底ごみの実態把握を進めるとともに具体的な対策を進めることを目指す。

2.個別項目

公1 水島地域の公害経験を活かし、国内外で公害のない、より良い地域を創造することを目指して、調査研究・提言活動を行う。調査研究によって得られた成果を環境改善報告書としてまとめる。

(1) 調査研究事業

1) 高梁川・瀬戸内海の研究（委託、請負）

瀬戸内海国立公園指定 80 周年に関連して、陸域も含めた瀬戸内地域における現在の課題と取り組みの状況をアンケート、ヒアリング等によって情報収集し、一覧にする。より一層の海底ごみ対策に向けて、これまでの知見を活かした調査研究を積極的に企画提案する。

高梁川架橋にともない、環境の変化が予想されることから、生物多様性の観点から高梁川河口部干潟など倉敷市沿岸における生きものの実態調査を行う。

2) 地球温暖化問題（委託）

岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度に関する評価・分析事業に関して、引き続き、各事業所からの報告書について分析を行うとともに、アンケート結果を基にした効果的な対策についての検討を行う。

3) 資料保存・活用（助成）

これまで整理を行ってきた患者会資料・写真等の目録作りを継続して行うとともに、それらの資料をつかった学習プログラム・教材開発を行う。

4) 環境保健（請負）

平成 25 年度事業で作成した COPD 地域連携パンフレットの活用と効果的な普及啓発に取り組む。

5) コンビナート研究（自主）

資料室の目録を活用して従来の研究資料などを精査・研究会で共有し、認識を深める。

(2) 提言活動（自主）

1) 委員・パブリックコメント

昨年度に引き続き、岡山県環境審議会、岡山県河川整備検討委員会、新岡山県環境マネジメントシステム外部評価委員会、岡山県環境学習協働推進広場 運営委員会（かんきょうひろば）、国土交通省宇野港湾事務所備讃瀬戸環境修復味野湾部会の委員として提言する。また、積極的にパブリックコメントなどを活用して、意見提出を行う。

2) 双方向コミュニケーションの実践

立場の違う人々の対話を重視し意思決定することが、環境分野でも今後さらに求められる。双方向のコミュニケーションの実践として毎年開催している倉敷市との懇談（6 月）、環境基本計画を学び育てる

会（9月）を今年度も継続して取り組む。

公2 水島の公害経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざし、公1「調査・研究・提言活動」で得られた知見を活用し、市民や企業、行政、NPO等に学習の場を提供、活動の支援、情報の収集提供をおこなう

(3) 講師派遣（自主）

川崎医科大学、川崎医療福祉大学、矢掛高校、水島小学校など、継続的に講師派遣を行うとともに、学年別・分野別に内容を整理し、情報発信を進め、対象にあった学びを提供する。

地域学習（八間川）：小学校3年生

公害教育：小学校5年生

環境の仕事：中学生、高校生

公害の歴史、フードマイレージ：大学・生涯学習

(4) 視察受け入れ、研修（自主）

従来行ってきた、川崎医科大学、岡山大学キャンパスアジア、倉敷医療生協新人職員研修の受け入れに加えて、今年度新たに、岡山大学の実践型社会教育プログラムの受け入れを行う。内容については、地域資源を活かしたプログラムの精査を行い、全国の大学へPRする。

また、毎年9月に開催してきた大学生のための水島エコツアーを、9月と3月の2回開催として定着させ、より広い顧客の獲得を目指す。

(5) 学習講座・啓発（委託、助成）

平成25年度に立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」において、水島での学びの内容や実施体制を検討し、水島版ESDプログラムとして取りまとめる。岡山市で開催されるESD国際会議で発表を行う。倉敷市環境学習センターのプログラムとして「経済と人々の暮らしの共生を考える（仮）」講座を定期的に開催することを目指す。

また、平成27（2015）年4月の開校を目指している高梁川流域の自然学校「GREENDAYS COLLEGE」開設準備委員会に参加し、流域における他のプログラムと連動した学びに対応できるように整備する。

瀬戸内海国立公園指定80周年に合わせて、海底ごみ回収の取り組みにスポットを当て、漁業者を応援するような漁業体験のイベントや、高梁川河口干潟を中心とした沿岸域の生物多様性について学ぶ体験学習イベントを企画・提案する。

その他、地球温暖化防止シンポジウム、フードマイレージ買いものゲーム講座、八間川調査、大気汚染について学ぶ講座など、これまで実施したプログラムを開催し、調査研究などを通じて得られた知見を市民に広める。

(6) 支援連携

1) NPO 支援

エコらぼ倉敷、倉敷・総社温暖化対策協議会交通システムグループ、おかやま環境ネットワーク自然環境部会などと連携し、運営に協力をするすることで、環境分野の市民活動の支援を行う。

2) 地域（自主、委託、委託）

まちづくりに関わる人材育成やフォローアップなど、水島地域のまちづくりの取り組みの支援を継続して行う。写真集「みずしま」が電子書籍化されるにともない、水島のよいところ（人・場所・事がら）を市民から募集するなど、水島の地域資源の掘り起こしの取り組みを行うことを通じて新しい環境文化を創造する。

毎年 12 月に開催している和解記念コンサートを活かして、水島の未来のまちづくりについて語りあう取り組みを行う。

3) 受け入れ体制の強化（委託）

調査研究や視察受け入れと連動して、インターン・ボランティアの受け入れを積極的に進める。

(7) 情報発信・収集

1) 発行物：環境改善報告書の継続発行（出版 5 万）

調査研究結果などを基に、環境改善報告書シリーズを継続発行する。写真集「みずしま」が電子書籍化されるにあたって、これまでの出版物について積極的に PR する。

賛助会員への情報発信及び、地域への情報紹介として発行している機関誌「みずしま財団たより」の誌面、編集体制についても見直しを行う。

2) コミュニティメディア

FM くらしき「みみみみずしま財団エコらぼ Friday」により継続的に情報発信を行うとともに、出演者を増やすなど、外部との協力による体制を構築する。

3) ソーシャルメディア

ブログ、facebook 等のソーシャルメディアによる情報発信の活用をさらに広げる。

4) 資料室：資料をつかった公害・環境学習づくりの取り組み（特定費用準備資金から 600 万円を取り崩す）

資料室、書籍等の整理を行い、より見やすい形での閲覧体制の整備を進める。これまでの資料保存の取り組みを活かして、収集・整理をした資料を使った効果的な展示・教材づくりを行う。また、環境公害学習の実施プログラムづくりにも反映させる。